

司法試験 最終合格者 本学法科大学院から12人

2012年度の司法試験の結果が9月11日、法務省司法試験委員会から発表された。本学法科大学院からの合格者は12人だった。

合格者は次の通り。なお、合格者数順の大学別順位は全国で29位、私立大学では16位。

高野 洋平さん	都合により写真は掲載いたしません	高野 洋平さん	都合により写真は掲載いたしません
協 徹さん	都合により写真は掲載いたしません	協 徹さん	都合により写真は掲載いたしません
石塚 政人さん	都合により写真は掲載いたしません	石塚 政人さん	都合により写真は掲載いたしません
進藤 渉さん	都合により写真は掲載いたしません	進藤 渉さん	都合により写真は掲載いたしません
永井 太丸さん	都合により写真は掲載いたしません	永井 太丸さん	都合により写真は掲載いたしません
栗原 潤也さん	都合により写真は掲載いたしません	栗原 潤也さん	都合により写真は掲載いたしません
張谷俊一郎さん	都合により写真は掲載いたしません	張谷俊一郎さん	都合により写真は掲載いたしません
齋藤 雄大さん	都合により写真は掲載いたしません	齋藤 雄大さん	都合により写真は掲載いたしません
鳴守 大河さん	都合により写真は掲載いたしません	鳴守 大河さん	都合により写真は掲載いたしません
竹山 翔悟さん	都合により写真は掲載いたしません	竹山 翔悟さん	都合により写真は掲載いたしません
貞永 憲佑さん	都合により写真は掲載いたしません	貞永 憲佑さん	都合により写真は掲載いたしません

神田キャンパスに350人

日本ペンクラブ「脱原発」シンポジウム

原発事故から26年後の考えるペンクラブの集い「脱原発」シンポジウムが8月30日、神田キャンパスで開かれた。原発事故後の現状の報告。作家、ジャーナリストの脱原発を訴えた。

次世代に苦悩を残すな

チェルノブイリ視察報告



「会場との対話」では活発な意見交換が行われた

350人が参加。来月に福島を視察した作家の吉岡忍氏が報告した。

「会場との対話」では、氏方が報告。「家族やコミュニティが分断され、子どもが外で遊べない、農業ができないなど、以前と全く違う生活を強いられる」と語った。

山田健太文学部教授(日本ペンクラブ言論表現委員長)がコーディネーターを務め、チェルノブイリ視察団(浅田次郎、野上暁、中村敦夫、神保哲生の各氏)に大原雄、住友達也、宮崎信也、森絵都の4氏に加わり、会場と活発な意見交換が行われた。

最後にチェルノブイリ被曝者支援活動や福島の子どものための疎開支援活動を行っているフォトジャーナリストの広河隆一氏が、福島とチェルノブイリの写真を紹介し、脱原発に向けた今後の活動と「未来への提言」を行った。

2012年度KSソーシャル・ビジネス・アカデミーが開講



▲ 受講生を励ます徳田アカデミー長

本学と川崎市が共同開講するKS(川崎・専修)ソーシャル・ビジネス・アカデミーがスタートした。文部科学省の「社会教育推進プログラム」受託事業として2008年から11年の5期にわたって展開されたKS(川崎・専修)コミュニティ・ビジネス・アカデミーの実績を土台にした事業。書類審査・面接を通過した35人が、10月から13年3月までの5カ月間にわたり講義と実習に取り組む。

開講に先立ち10月2日にサテライトキャンパスで開かれたオープニング

・ステージでは、徳田賢二アカデミー長(経済学部教授)、原田博夫経済学研究科長(経済学部教授)、川崎市経済労働局産業政策部企画課長・赤坂慎一氏のあいさつと、入学オリエンテーションが行われた。徳田アカデミー長は「アカデミーを一つのプラットフォームとして利用し、皆さんの財産にしてください」と受講生を励ました。

KS(川崎・専修)ソーシャル・ビジネス・アカデミーが主催する公開講座「社会に貢献できるソーシャル・ビジネス第2回」が、9月2日、サテライトキャンパスで行われ、山崎泰史石巻専修大学経営学部准教授とNPO法人「アースデイマネー・アソシエーション」代表理事・嵯峨生馬氏の講演を約50人が聴講した。

山崎准教授は「震災復興における大学とNPOの協業」をテーマに、石巻市で被災者支援活動を行っているNPOの事例を基に、NPOの役割について講演。学生がゼミ活動の一環として取り組んだ仮設住宅支援の事例を紹介しながら活動を通して生まれた地域のボランティア団体やNPOとの協業関係に触れ、つながることで生まれる新たな価値がある。ネットワークづくりの拠点となり、人と知恵で社会貢献

することが地域における大学の大きな役割と語った。嵯峨氏は、地域通貨のシステムを通じて街の活性化と環境保全を図る「アースデイマネー」の設立者であり、プロボノの活動を推進するNPO法人「サービスタウン」の代表理事も務める。「市民社会の成熟に

2011年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定された「融合的心理科学の創成」心の連続性を探る「国際シンポジウム」を開催。定員180人。聴講無料。使用言語は英語。▽日時11月10日(土)14時17分～会場1神田キャンパス731教室▽研究報告1澤幸祐人間科学部准教授▽講演1Robert A. Rescorla ベンシールバニア大学名誉教授▽中島定彦関西学院大学教授▽鮫島和行玉川大学准教授

日本心理学会 第76回大会

北山修氏、伊帕ルマ大学のリッツォラティ教授らが講演

9月11～13日の3日間、生田キャンパスで日本心理学会第76回大会が開催された。

「日本人の深層心理」をテーマに講演する北山氏(左)。右は乾教授

ミラーニューロン(他人の行為を見てだけ自分も行為をする)と自己の行為を活性化するときと同じように活性化される脳の神経細胞)の発見者として著名なリッツォラティ教授は「ミラーニューロンシステムと他者理解における役割」と題して講演。

リッツォラティ教授は「ミラーニューロン(他人の行為を見てだけ自分も行為をする)と自己の行為を活性化するときと同じように活性化される脳の神経細胞)の発見者として著名なリッツォラティ教授は「ミラーニューロンシステムと他者理解における役割」と題して講演。

本大会は、延べ参加者1万人、研究発表1500件、シンポジウム25件にのぼり、本学で開催された最も大規模な学会大会となった。

10月7日、71歳で死去。1978年から在職。2012年定年退職。担当は「ドイツ語と芸術学」。



「日本人の深層心理」をテーマに講演する北山氏(左)。右は乾教授

ミラーニューロン(他人の行為を見てだけ自分も行為をする)と自己の行為を活性化するときと同じように活性化される脳の神経細胞)の発見者として著名なリッツォラティ教授は「ミラーニューロンシステムと他者理解における役割」と題して講演。

本大会は、延べ参加者1万人、研究発表1500件、シンポジウム25件にのぼり、本学で開催された最も大規模な学会大会となった。

10月7日、71歳で死去。1978年から在職。2012年定年退職。担当は「ドイツ語と芸術学」。

10月7日、71歳で死去。1978年から在職。2012年定年退職。担当は「ドイツ語と芸術学」。

公開講座情報

大学院経済学研究科政策科学シンポジウム「雇用をめぐる新たな問題領域」就業支援にどう取り組むのか。大震災を経て深刻化する雇用の最新動向について、経済学部の4教員が様々な側面から迫る。定員180人。聴講無料。▽日時11月10日(土)14時17分～会場1神田キャンパス731教室▽研究報告1澤幸祐人間科学部准教授▽講演1Robert A. Rescorla ベンシールバニア大学名誉教授▽中島定彦関西学院大学教授▽鮫島和行玉川大学准教授

10月7日、71歳で死去。1978年から在職。2012年定年退職。担当は「ドイツ語と芸術学」。